

『ONE BOOK ONE LIFE』別冊号1986年9月10日第1号発行

ろくおん通信

No. 138

発行日 2005年2月15日
発行 盲人情報文化センター
録音製作係

※「聴いてわかる録音図書をつくる為に」は今回はお休みします。

2005年度より

デージー図書を優先した製作体制に移行

録音製作係

盲人情報文化センターでは2005年度より、これまでのカセット図書とデージー図書の同時製作体制をやめ、デージー図書を先に製作する体制に切り替えます。

これはデージー図書の普及をさらに推し進めていく為に行います。

カセットテープはデージー図書のデータ（PCM）から「PRS（編集ソフト）」でカセットテープ用に「自動編集（簡易編集＝書名、巻数、A面かB面、各巻のおわりのコメント）」したものを発表していきます。

今後はデージー図書をメインにした製作体制に移行することから、これまでの「録音の順序」や「デージー編集マニュアル」「校正マニュアル」などを作り替えます。

改訂したものは順次この『ろくおん通信』で発表していきます。

また、来年度から、盲人情報文化センターの自宅録音ボランティアを中心に「Recdia（録音ソフト）」を使い、インターネットを介して、音声訳・校正などの一連の作業を行う「バーチャルスタジオ音声訳チーム」を立ち上げます。「Recdia（録音ソフト）」は盲人情報文化センターより提供します。

また、プライベート製作もカセットテープでの提供とともに、依頼があればデージー図書での提供も進めていきますので、プライベートチームではPRS（デージー編集ソフト）を使っていきなりデージー図書を作成する体制もすすめていく予定です。

※今号ではデイジー図書を念頭に注の処理について、2回にわけて取り上げます。音声訳者、編集者は、読み合わせして処理の研究にしてください。（録音製作係）



DAISY図書の注の処理(その1)

日本ライトハウス点字情報技術センター 福井哲也

全視情協(全国視覚障害者情報提供施設協会)の調査によりますと、2003年度に全国の視覚障害者情報提供施設で製作された録音図書は、カセットテープが12,528タイトルに対してDAISYが9,699タイトルで、各施設のDAISY製作能力が相当アップしてきていることがうかがえます。全視情協では、2006年度までに録音図書製作のデジタル化を推進するという目標を立てており、私たちはすでに本格的なDAISYの時代に足を踏み入れているといえるでしょう。

ところで、「録音図書製作のデジタル化」というとき、私たちはまず、デジタル録音・編集のための機材やソフトの調達、それらの操作に関する研修といったことを思い浮かべます。しかし、もっと大切なことが別にあると、私は考えています。それは、デジタル録音図書にふさわしい音訳処理技法の研究です。本稿では、注をどう処理するかをテーマに、この問題を論じてみようと思います。

墨字図書では、注はページの欄外に書かれたり(脚注)、章末や巻末にまとめられたりしています。これを音訳する場合、カセットテープ図書では、本文の語句や文の後ろに注を読み込む方法がほとんどでした。注の非常に多い専門書で、注だけを別のテープに録音するというのもまれには行われましたが、これは例外といってよかったです。

ところがDAISYでは、注を本文と離れた位置に録音する手法が可能となりました。離れた位置にあっても、ユーザーが必要に応じてそこへ飛んだり、戻ったりできるような編集が施せるからです。また、従来通り本文中に読み込む場合でも、ユーザーが不要と思えばそこをスキップできるような工夫も可能になりました。

このように、注の処理方法の選択肢が増えたのは喜ばしいことですが、逆にいえば、どの方法によるかを音訳に入る前に的確に判断しなければならなくなりました。そのためには、図書のジャンル、用途、利用者層、注そのものの内容や長さ、数などを考え合わせる必要があります。ここでは、あくまで私の個人的見解に基づいて、考え方

の筋道と実際の処理方法の例を紹介したいと思います。

注には、大きく分けて次の2つのタイプがあると思います。

Aタイプ：本文中の言葉や記述内容に関する解説や補足など、聞き手の理解を助けるもの。あるいは、本文の理解のためには必ずしも必要ではないかもしれないが、注が短いため、本文の中に読み込んでさほど煩雑にならないもの。→本文中に読み込む

Bタイプ：引用・参考文献など、通常はそれを聞かなくても本文の理解にはあまりさしつかえないもので、特に聞き手が望むときだけ参照するもの。あるいは、非常に長い注であったり、注の数が極めて多いため、本文中に挿入したのではかえって理解を妨げるおそれのあるもの。→本文とは別の位置に入れる

Aタイプの注の挿入位置としては、(1)注の付いた言葉の直後、(2)注の付いた言葉を含む文の直後、(3)注の付いた言葉を含む段落の終わり、などが考えられます。注の長さや文の流れなどを考慮し、できるだけ分かりやすい位置を選びます。あるものは言葉の直後、あるものは文末というように、個々に判断していく必要があります。言葉の直後に挿入できるのは、短い注に限られるでしょう。

文末や段落の終わりに注を挿入する場合には、その注を飛ばしたいと思ったときに簡単に飛ばせるように、注の頭と終わりにグループを付けるのが有効です。注の終わりのグループは、「注 終わり」のフレーズに付けます。一文(一段落)に注が2個以上あるときは、各注の頭と最後の注の終わりにグループを付けます。注の1は飛ばしたいが2は読みたい、といったことにも対応できるようにするためです。

注が一文程度と短い場合には、グループ付けではなく、注の最初から終わりまでを1つのフレーズに結合する方法もあります。こうすれば、フレーズ単位に送る操作(プレクストーク系では送りキーを短く押す)で、注を飛ばして本文に戻ることができます。ただし、長い注を1フレーズに結合してしまうと、その注の中での前後移動がやりにくくなりますので、この方法がとれるのは、本全体を通じて短い注しかない場合に限られます。

(なお、全ての注が非常に短く、飛ばしたいと思ってキーに手を伸ばしたとたん読み終わってしまうような場合には、ここで説明したグループ付けやフレーズ結合は不要でしょう。文学書などに、このような例がときおり見受けられます。)



(つづく)

デイジー編集についての Q&A

Q 目次が無い本ではデイジー図書凡例ではどのようなコメントをしたらいいのでしょうか

A 目次のない本も結構あります。デイジー図書で目次がないものを、そのままセクションわけしないでレベルで編集したら、聞き手が、十字キーで移動したら、「本文」の次はいきなり、「最後の粹アナ」になり、利用者は不便になります。

盲人情報文化センターでは、目次がない場合、まず、階層をいう前に、

『この図書には目次はありません。』

とコメントし、その次に、階層をコメントします。

『階層はレベル1です。（2以上の時は、「〇まであります。」とコメントします）』（注意 目次のある本では最初に階層をコメントします。）

目次がない本でも、本文に何らかの項目（記号や空白なども）があれば、その項目をセクションで区切ります。その項目をレベル1で区切るか、レベル2で区切るかは全体の構成で決めます。本文の項目がレベル2や3までであるような時は、デイジー図書凡例で本の構成をあらかじめ断る方がよいこともあります。

例『この図書には目次はありません。階層はレベル1です。本文の小項目をレベル1で区切っています。』

例『この図書には目次はありません。階層はレベル2まであります。本文の小項目をレベル2で区切っています。』

例『この図書には目次はありません。階層はレベル2まであります。レベル1は〇〇、〇〇、〇〇、レベル2はその下の小項目です。』

注意 原本の構成はいろいろありますので、それぞれの本に応じたコメントを工夫します。複雑な説明は混乱させるもとになりますので、簡潔なわかりやすい説明をしましょう。

2005年度

録音図書（デージー図書）製作講習会（音声訳コース）のご案内

盲人情報文化センターでは、デージー図書を作成する「録音図書製作講習会（音声訳コース）全20回」を下記の内容で実施します。

この講習会は、①発声の基礎的な訓練を終了し、②ご自宅で「パソコン」（Windows 98 SE 以上 Me / XP）が用意できる方が対象です。

講習では、「デージー図書」の録音に必要な技術（録音技術、調査、音声訳処理、パソコン操作など）を自宅で実際にパソコン録音を行いながら講習を行います。

この講習を希望されます方は、申込用紙に必要事項を記入の上、盲人情報文化センター録音製作係までお送り下さい。

*担当 盲人情報文化センター 録音製作係

実施時期： 2005年4月12日（火）

～2006年3月

※原則、毎月第2、第4火曜日 20回予定

10:00～12:00

※2006年より月1回

会場： 盲人情報文化センター

講習内容： 1. パソコン録音技術、読み
2. 漢字、図、表などの音声変換処理
3. 録音の順序など

資格： ○発声の基礎の研修を終了している方
○ノートパソコン（Windows98se以上 Me/ XP）を用意できる方
○終了後盲人情報文化センターの音声訳の活動に参加できる方

費用： 無料

定員： 15名程度

申込方法： 所定の申込用紙に記入の上、郵送(Faxも可)またはご持参ください。

〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-13-2

社会福祉法人日本ライトハウス

盲人情報文化センター録音製作係

電話 06-6441-0015

- ×切日 : 2005年3月26日(土)
試験日 : 2005年3月29日(火)
盲人情報文化センター 9階 10時~12時
試験内容 : ①アナウンステスト
②漢字
③面接
※筆記用具持参のこと 鉛筆、消しゴム
発表 : 2005年4月2日(土)までに連絡
講習開始 : 2005年4月12日(火)
10:00~12:00

※ 尚、試験日当日、来館出来ない方は、担当者までお申し出ください。



テープ雑誌「週刊新潮」の音声訳ボランティアを募集します

盲人情報文化センターでは、週刊新潮のテープ版を毎週発行していますが、今回、この週刊新潮の専属の音訳者を募集します。

音訳者は第1週号から第5週号をそれぞれ4、5人で分担しています。活動は月に2回の来館(1回目は読み合わせ、2回目はスタジオ録音)で、1回の活動時間はおよそ半日程度になります。実際の録音は二人が組になって機械操作と録音を交互に行います。

募集要項は下記の通りです。ふるって応募してください。

記

- 定員 : 若干名
条件 : 月に2回程度の来館が可能な方
選考内容 : 2005年3月15日~3月19日の10時~16時の間に、来館していただき、課題文を録音(5分程度)
選考結果 : 本人に電話で連絡
申し込み方法 : 電話で録音製作係(清水か月岡)まで

利用者から製作依頼を受けている原本

この本は利用者から依頼を受けている本です。

音声訳をして頂ける方がありましたら、録音制作係までご連絡ください。

『日本の短編 上』 臼井吉見、平野謙編 <文学 372ページ>

『日本の短編 下』 臼井吉見、平野謙編 <文学 410ページ>

『誰でもできる経筋治療』 篠原昭二著 <東洋医学 145ページ>

『こっそり読みたい相場の法則』 前野晴男著 <経済 388ページ>

『旧約聖書と教会 66号』 東京神学大学神学会 <宗教 260ページ>

2005年度

「音訳フォローアップ講座」(全11回)のご案内

橋本勝利先生による「音訳フォローアップ講座」は、2005年5月より第4水曜と第4金曜の午後に実施します。

定員は2コースそれぞれ15名です。この講習会は先着順で受け入れます。お早めにお申し込みください。

申し込み先

盲人情報文化センター録音製作係 06-6441-0015

実施時期：2005年5月～2006年3月

毎月第4水、第4金の午後1時～4時

費用 7000円(11回分一括)

申し込み締め切り 5月25日(水)

講師 橋本 勝利 氏



プライベート製作チームの勉強会 (毎月第4水曜日 1時半~3時)

来年度からプライベートサービスでは、カセットテープでの提供とともに、希望者にはデイジー図書での提供も進めていく予定です。

今後の勉強会では、PRSを使って録音し、いきなり「デイジー図書」を作成する勉強会も予定します。

この定例の勉強会は、盲人情報文化センターのプライベート製作に協力頂いていますグループの方の勉強会として毎月行っています。新たに協力できるグループがありましたら是非この勉強会にご参加ください。

はじめて参加をされる方は録音製作係(清水か月岡)までお申し込みください。

< 2005年度 >

- | | |
|----------|------------------|
| 3月23日(水) | 図・表の読み方 |
| 4月27日(水) | デイジー図書録音の順序 |
| 5月25日(水) | パソコンを使いPRSでの録音講習 |

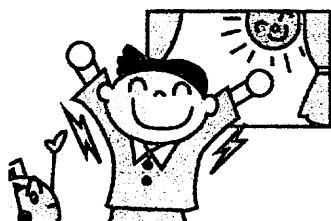
『ろくおん通信』の更新のお願い

『ろくおん通信』の更新月となりました。グループには「『ろくおん通信』の更新について」のお知らせを同封しておりますのでよろしくお願い致します。

費用は①郵送費を一律、年間、1000円(部数に関係なく)、②印刷代として、1部年間100円です。

1部の場合は、年間1100円、後は申し込み部数に従って100円ずつ増えていきます。5部の場合は、年間1500円、10部の場合は年間2000円になります。

郵便で申し込まれる方は、出来るだけ郵便小為替でお願いいたします。



次回『ろくおん通信』の発行は、4月の予定です。